

④9 富山県立近代美術館移転新築整備事業

受賞機関 富山県

キーワード 公園との一体整備、付加機能の付与、高い開放性

全建賞審査委員会の評価ポイント

既存美術館が抱える「耐震性不足」「設備不十分」「情報発信不足」の問題を解決するため、富岩運河環水公園へ移転新築するとともに、公園施設と一体の景観づくり、地場製品の展示等といった付加機能を持たせた施設整備事業。

耐震性の不足、立地条件の悪さ等の既存施設の課題を解消し、来訪者の多い公園内に開放性の高い施設として整備するなど、気軽に美術館を訪れ、美術に触れることができるよう工夫が図られている点が評価された。

1. はじめに

移転新築前の富山県立近代美術館は、開館から30年以上が経過し、耐震性の不足など施設のハード面での課題、また、発信力が弱く、高く評価されている美術館のコレクションが十分活用されていないなどのソフト面での課題があった。このため、「県立文化施設・整備充実検討委員会」からの提言を受け、富山駅北にある県立の富岩運河環水公園西地区に移転新築することとなった。



富岩運河環水公園からみた富山県美術館

2. 事業の概要・成果

平成25年度から設計を行ったのち、平成27年度から平成28年12月に美術館本体工事を、平成28年度から平成29年8月に美術館周辺整備を行い、同年8月26日に全面開館となった。

○構造：鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造

○階数：地上4階建て

○延べ面積：14,990㎡

施設の特徴は以下のとおりである。

(1) 既存施設の課題解消

耐震性については、避難所相当の荷重条件による構造

計算をクリアしている。設備に関しては、展示室及び保管庫の消火設備は美術品に適した不活性ガス消火設備としたほか、空調設備は二重壁内を空気の経路に利用した24時間対応の室内空調としている。

(2) 公園施設と一体の景観づくり

富岩運河環水公園内に立地する特性を生かし、来園者や子供たちが訪れたい施設を目指した。

建物正面のガラスのカーテンウォールは富山県のシンボルである立山連峰に平行となっており、館内及び屋上からは公園の賑わいと美しい山並みを眺めることができる。屋上は、オノマトペ（擬音語・擬態語）をイメージする遊具を配した庭園「オノマトペの屋上」となっている。

(3) 地域の地場製品の展示

地域の地場産物を建物内外に使用しており、富山の産業、技術を展示する役割を持たせている。

建物外壁には、本県の基幹産業であるアルミの特注パネルを張り、時間によって見え方の変わる外観を創出するほか、吹抜の壁・天井にもアルミ材を使用している。2、3階中央廊下の壁・天井や1階エントランスの天井には、県産材であるひみり山杉を多用し、温かみのある空間としている。



2、3階中央廊下 ひみり山杉の格子壁

3. おわりに

富山県美術館は、平成29年3月の一部開館以降、平成30年6月末時点で既に156万人を超える方が来館され、多くの県民に親しまれる美術館となっている。

美術館と富岩運河環水公園の相乗効果により今後益々、県内外の方々に愛される施設となることを期待している。